# FAKJ 重点施策

## 2021 - 2023

（一社）神奈川県サッカー協会

2021(令和３)年７月１５日　理事会

# 目　次

2021/2023FAKJ 重点施策の全体図

＜重点施策の柱＞

１　普及促進活動の充実

２　育成環境の充実

３　指導者の育成

４　審判員の育成

５　国体代表チームの強化

６　女子サッカーの普及・強化

７　施設整備の推進

８　社会貢献活動の推進と青少年の健全育成

９　トップリーグとの連携・強化

10　サッカーを通じた国際交流の推進

11　組織基盤の確立

＜参考資料＞

１　かながわサッカービジョン

２　JFA 中期計画 2021/ 2024

# ＦＡＫＪ重点施策2021-2023

## かながわサッカービジョン

＜三つの精神＞
・愛を何より大切にします。
・プレーの精神（遊び心）を大切にします。 I play Soccer!
・フェアプレーの精神を大切にします。そして、みんなの夢を応援します。

＜理　念＞
サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
県民の健康増進を願い、地域に根付いた活動を通じて社会的発展に貢献します。

＜基本方針＞
神奈川の「歴史」と「地の利」を生かし、国際的視野に立ち、サッカーを通じて人々の成長に貢献します。
また、サッカーを通じて県民の生涯スポーツの発展及び健康増進に寄与します。

| ＜使命＞ | 施策no. | 施策の柱（テーマ） | 目指す方向性 | 使命no. | 重点施策 | JFA中期計画との関連 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ＜使命5＞県内の市町村協会やクラブチームの活性化に向けた連携協力を推進します。<br>＜使命9＞トレーニングセンターの活動を充実させ、地域・年齢別のカテゴリーを効果的に育成します。<br>＜使命4＞学校教育との連携を推進します。 | 1 | 普及促進活動の充実 | サッカーファミリーの拡大を図り、サッカーファミリーのスポーツライフの充実を図る。 | | メンバーシップ登録の推進 | 2【普及】(1)(3)<br>重点【4種】 |
| | | | | 2-(2) | サッカーファミリーの拡大とサッカーの充実に向けた事業の拡大 | 2【普及】(6) |
| | | | | | リーグ戦の定着に向けた取組の推進 | |
| | | | | 1-(3) | グラスルーツや障がい者サッカーの充実に向けて、関係団体等との連携や支援の充実 | 2【普及】(5) |
| ＜使命9＞（前出）<br>＜使命4＞（前出） | 2 | 育成環境の充実 | それぞれのカテゴリーで日本を代表する選手を育成できるトレセン活動を中心とした育成環境の充実を図る。 | 9-(1) | トレセン制度を軸とした育成環境の充実 | 1【強化育成】(3) |
| | | | | 7-(2) | ３種及び４種を中心とした登録チームへの有資格者配置の推進 | |
| | | | | | ウエル・フェア・オフィサーの活用とフェアプレーの推進 | |
| | | | | | 安心・安全な活動環境の保障 | |
| | | | | 5-(2) | 地域クラブ等の健全運営と活動の充実に向けた支援体制の充実 | |
| | | | | 5-(1) | 地域（市町村）協会との情報共有と連携・協力体制の充実による地域活動の充実 | |
| | | | | 4-(1) | 学校体育団体と連携による学校部活動を活性化するための支援策の充実 | |
| ＜使命7＞指導者養成システムの充実と指導者の資質向上を目指します。 | 3 | 指導者の育成 | より質の高い指導ができるような指導者を育成し、日本のサッカーのレベルアップに繋がるようなプレー環境の充実を図る。 | 7-(1･2) | 指導者の量的な拡充と質的な向上 | 1【強化育成】(3) |
| | | | | 7-(3) | 神奈川の特色を生かした指導者研修会の充実 | |
| | | | | | コーチ・トレセン及びトレセン・メンター制度、評価制度等の導入等によるインストラクター、トレセンコーチの資質向上 | |
| | | | | | 技術担当専任者を中心とした指導者育成事業の改善・充実 | |
| ＜使命8＞審判員育成システムを充実し、審判員の資質向上を目指します。 | 4 | 審判員の育成 | より質の高いレフェリングができる審判員を育成し、日本のサッカーのレベルアップに繋がるプレー環境の充実を図る。 | 8-(1) | 技術との連携・協力の推進による円滑なゲーム運営の実現 | 1【強化育成】(6) |
| | | | | 8-(2)(3) | 審判員の量的な拡充と質的な向上 | |
| | | | | 8-(3) | 神奈川の特色を生かした審判研修会の充実 | |
| | | | | 8-(4) | 国際審判員の発掘・育成 | |
| | 5 | 国体代表チームの強化 | 各種別で日本一を目指すことで、選手の育成強化を図り、神奈川の若いサッカープレイヤーに夢と希望を与える。 | | 神奈川の特色を生かした強化指針によるチーム強化 | |
| | | | | | 代表チームへの支援体制の充実 | |
| | | | | | 所属チームとの連携の強化 | |
| | | | | | 国体チームの試合結果等の積極的な広報による関心度を高める取組の充実 | |
| ＜使命5＞（前出）<br>＜使命9＞（前出）<br>＜使命4＞（前出） | 6 | 女子サッカーの普及・強化 | 女子サッカーの普及を促進し、各カテゴリーで日本を代表するチームや選手を育成する。 | | 女子サッカーの普及活動の推進 | 重点【女子】 |
| | | | | | 女子サッカーの活動環境の改善 | |
| | | | | | 女性の公認指導者の育成・拡充 | |
| | | | | | 女性の審判員の育成・拡充 | |
| | | | | | トレセン活動の充実による選手育成 | |
| ＜使命3＞神奈川県グリーンプロジェクトを推進するとともに、サッカー施設の拡大を目指します。 | 7 | 施設整備の推進 | いつでもサッカーが楽しめる施設の拡充を推進する。 | 3-(1) | JFA施設整備助成金の活用による自治体と地域（市町村）協会と連携した施設整備の推進 | 2【普及】(4) |
| | | | | 3-(2) | かもめパークの施設設備の充実と活用推進 | |
| | | | | 3-(3) | 県立スポーツセンターの施設整備の支援と活用推進 | |
| | | | | 3-(3) | サッカーゴール寄贈事業を含め、地域（市町村）協会との連携・協力による施設設備の充実 | |
| ＜使命1＞社会貢献活動の推進と青少年の健全育成を目指します。 | 8 | 社会貢献活動の推進と青少年の健全育成 | 社会貢献活動を推進し、国際感覚をもった青少年の健全育成を図る。 | 1 | SDGsの考え方を踏まえながら、社会と地域への貢献活動を推進 | 3【組織】(4) |
| | | | | 1-(2) | 社会貢献活動への積極的な参加を啓発するなどして青少年の健全育成を推進 | |
| | | | | 1-(1) | リスペクト、フェアプレーの定着に向けた啓発活動の充実 | |
| | | | | 1-(3) | グラスルーツのスポーツの普及や障がい者のスポーツの活動環境づくりの支援 | |
| ＜使命6＞Jリーグとの連携強化を図ります。 | 9 | トップリーグとの連携・強化 | 地の利を生かして、トップリーグの発展と神奈川サッカーの普及・強化の両立を目指す。 | 6-(1) | Ｊ・ＷＥ・Ｆリーグ等との連携・協力体制の強化 | |
| | | | | 6-(1) | Ｊリーグ等との定期的な情報交換の機会の創出 | |
| | | | | 6-(1) | Ｊリーグ等との協働事業の企画 | |
| | | | | 6、4-(4) | Ｊリーグ等と連携した「こころのプロジェクト」の推進 | |
| ＜使命10＞サッカーを通じた国際交流を推進します。 | 10 | サッカーを通じた国際交流の推進 | サッカーを通じた国際交流の推進により国際感覚を身につけたサッカー選手や指導者等を育成する。 | | 東京オリ・パラ大会の円滑な運営とレガシーの構築 | |
| | | | | 2-(2) | 国際大会、国内大会等のトップレベルの大会の招致活動の推進 | |
| | | | | 10-(1) | 海外キャンプの実施等によるチーム（選手・指導者等）の国際交流の推進 | |
| | | | | 10-(2) | 県の特色を生かした国際交流大会等の開催を推進 | |
| ＜使命2＞一般社団法人としての経営基盤を確立し、 安定した事務局運営と財源の確保に努めます。 | 11 | 組織基盤の確立 | 神奈川のサッカーの普及・充実をリードできる組織基盤を確立する。 | 2-(1) | 事務局及びかもめパークの運営体制の充実による会員サービスの向上と収益の向上 | 3【組織】(1) |
| | | | | 2-(2) | 組織的なマーケティングによる協賛企業等の増大（財源の確保） | 4【ビジネス】(1) |
| | | | | | ガバナンス（意思決定・運営・会計原則・不祥事）、コンプライアンス（法令遵守）の一層の推進 | 3【組織】(3) |
| | | | | | JFA一括補助金の適切でより有効な活用の推進 | |
| ＜使命11＞「夢」を具現化します。 | | | | 2-(1) | 役員等への女性及び外部理事の登用による組織運営の充実 | 3【組織】<br>(1)(2)(3)(4) |

継続（見直しも含む）　　新　規

# １　普及促進活動の充実

**＜目指す方向性＞**

**サッカーファミリーの拡大を図り、サッカーファミリーのスポーツライフの充実を図る。**

**＜２３年度までの KGI＞**

**登録者数 85.000 人にする。**

## １　メンバーシップ登録の推進

・ＪＦＡ登録制度改革及びメンバーシップ登録を促す広報啓発事業に取り組む。

## ２　サッカーファミリーの拡大とサッカーの充実に向けた事業の拡大

・JFA 登録制度改革に合わせ、新規登録者を増やす。

・タウンクラブ選手の普及充実と広報活動を充実させる。

・リーグ戦を整備し、登録チームを増やす。

・幅広い世代にフットサルができる環境を整える。

・２種及びシニアとの交流の架け橋となれるような取組を行う。

・フェスティバルで少人数制サッカーを導入する。

・合同チーム出場を含めた選手出場可能大会の拡大を図る。

## ３　リーグ戦の定着に向けた取組の推進

・未実施の市町村協会に働きかけ、リーグ戦の実施を促す。

・全登録チーム・選手が参加できるようにリーグ戦の参加基準と会場確保等についてのルールを緩和する。

・神奈川県 CY リーグの充実と協賛社の拡大に取り組む。

・各年代で年間を通してリーグ戦を開催する。

・レベルに応じた戦いのできるリーグ戦改革を推進する。

### 4　グラスルーツや障がい者サッカーの充実に向けて、関係団体等との連携や支援の充実

・JIFF・J チームと連携した障がい者サッカーイベントを主催する。

・それぞれの事業に係る事の出来る学生を中心としたボランティアを育成する。

・障がい者サッカー事業に積極的に参加する。

## 2　育成環境の充実

＜目指す方向性＞

それぞれのカテゴリーで日本を代表する選手を育成できる

トレセン活動を中心とした育成環境の充実を図る。

＜２３年度までの KGI＞

登録チームの有資格指導者の配置率を 100%にする。

### 1　トレセン制度を軸とした育成環境の充実

・指導者養成部会と連携し、カテゴリー毎にトレセンコーチ研修会を実施し、トレセンコーチの指導力を向上させる。

・キッズエリートプログラムを充実させる。

### 2　３種及び４種を中心とした登録チームへの有資格者配置の推進

・市町村協会の協力を得て、FA コーチと連携し、指導者資格取得講習会を各地区で開催出来るようにする。

・チーム登録や大会参加条件として有資格指導者を加える。(4 種は現在 D 級だが、C 級を増やす)

・指導者養成において、平日コースや夜間コース、集中コース等様々なコースを設置するとともに各種別への広報を的確に実施し、有資格指導者を増やす。

## 3　ウエル・フェア・オフィサーの活用とフェアプレーの推進

・ウエルフェアオフィサー講習会の開催と設置大会を増設し、ウエルフェア・オフィサーを配置する。

・指導者講習会での講習を義務付ける。

・各種大会でフェアプレー賞を授与するとともに、フェアプレーの啓発を働きかける。

・ゲームだけではなく地域を巻き込んでフェアな精神を啓発する。

・部会・クラブからの依頼を受けてフェアプレーに関連する研修会を行う。

・信頼される相談窓口に向けて真摯な活動を行う。

## 4　安心・安全な活動環境の保障

・コロナ感染対策・熱中症対策等を確実に行う。

・指導者講習会での講習を義務付ける。

## 5　地域クラブ等の健全運営と活動の充実に向けた支援体制の充実

・市町村協会に属さないチームの組織化を推進する。運営についても指導者講習会等で働きかける。

・県リーグ戦の普及や充実のため、各種別大会の期分けを調整してリーグ戦や公式戦を増やす。

・指導者講習会での働きかけの機会を増やす。

・U18 リーグ改革を推進する。

・FAKJ リフレッシュ研修会を多種別と協働して開催する。

## 6　地域（市町村）協会との情報共有と連携・協力体制の充実による地域活動の充実

・ゴール寄贈事業や設備整備事業等の機会を活用し、市町村連絡協議会所属協会を増やす。

・郡市協会との連携を深め、フェアプレーの推進を図る。

## 7　学校体育団体と連携による学校部活動を活性化するための支援策の充実

・指導スタッフの派遣方法等に係る課題を検討し、外部指導者派遣事業の活性化に取組む。

・教員が受講しやすい日程での指導者養成取得講習会を開催する。

・高体連技術部会との協働で選抜活動へのサポートを充実させる。

・一般顧問から専門委員や地域トレセンスタッフへの積極的な登用を図る。

・小学校への巡回指導を行う。

## ３　指導者の育成

**＜目指す方向性＞**

**より質の高い指導ができるような指導者を育成し、**

**日本のサッカーのレベルアップに繋がるようなプレー環境の充実を図る。**

**＜２３年度までの KGI＞**

**FAKJ 登録指導者数（キッズリーダを含め）を７，０００人にする。**

### １　指導者の量的な拡充と質的な向上

・県内各地区での指導者養成取得講習会を開催する。

・平日や夏休み期間等の新規コース開催で有資格者を増員する。

### ２　神奈川の特色を生かした指導者研修会の充実

・県内６チームあるＪクラブと連携したＣ、Ｄ級養成講習会を開催する。

・Ｊリーグ、WE、なでしこリーグ観戦型リフレッシュ講習会を企画し実戦からの学びを充実する。

・市町村協会との連携による指導者講習会を開催する。

### ３　コーチ・トレセン及びトレセン・メンター制度、評価制度等の導入等によるインストラクター、　トレセンコーチの資質向上

・FA コーチによる各地区トレセン巡回訪問を実施する。

・コーチトレセンを実施する。

・トレセンメンター制度の創設に向けた各地区インストラクター制度を開設する。

・各講習会でスマホアンケートを実施し、講習会の改善・充実を図る。

### ４　ＦＡコーチを中心とした指導者育成事業の改善・充実

・FA コーチによるＢ級コーチ養成講習を平日コース・休日コース・短期宿泊型コース・夏休み日程コースなど多様なコースを開設する。

・FA コーチを含め、組織的な指導者育成システムを構築し、全体のレベルアップを図る。

## ４　審判員の育成

**＜目指す方向性＞**

より質の高いレフェリングができる審判員を育成し、

日本のサッカーのレベルアップに繋がるプレー環境の充実を図る。

**＜２３年度までの KGI＞**

FAKJ 登録審判員数を２５，０００人にする。

### １　技術との連携・協力の推進による円滑なゲーム運営の実現

・技術部(FA コーチ)が編集作成した選手育成のための分析ビデオによるレフェリング改善研修会を定期的に実施する。

・技術スタッフ・チーム関係者を招いた審判研修会を定期的に開催する。（年４回程度）

### ２　審判員の量的な拡充と質的な向上

・４級審判員の技術向上のための講習会を拡充する。

・上位審判資格取得へのアナウンスを積極的に行い、上級審判員を増やす。

・中学生審判員の資格取得を推進し、審判機会を創出する。

・オンライン審判資格取得講習会を開催する。

・上級審判資格取得を目的としたトレセン事業を開催する。

・審判インストラクターの資質向上を図るため、インストラクタートレセンを開催する。

### 3　神奈川の特色を生かした審判研修会の充実

・３県交流(静岡・山梨・神奈川)プログラムを実施する。

・ユース審判員を育成する。

・オリンピック事前キャンプ・Ｊ クラブ・WE・なでしこクラブのトレーニングマッチを利用したレフェリートレセンを実施する。

### 4　国際審判員の発掘・育成

・日本協会・関東協会と審判員の情報共有を図り、連携した指導を展開する。

## ５　国体代表チームの強化

**＜目指す方向性＞**

各種別で日本一を目指すことで、選手の育成強化を図り、

神奈川の若いサッカープレイヤーに夢と希望を与える。

**＜２３年度までの KGI＞**

①　少年男子・少年女子は優勝する。

②　成年男子・女子はベスト４以上にする。

### 1　神奈川の特色を生かした強化指針によるチーム強化

・世界基準を意識し、代表選手を目指した選手育成とチーム強化を推進し、将来サッカー界に貢献できる人材育成を推進する。

### 2　代表チームへの支援体制の充実

・かもめパークをはじめとする施設の優先的利用やオフィシャルパートナーによるエキップメントサポートを充実させる。

### 3　所属チームとの連携の強化

・J・WE はもとより、1 種・2 種・3 種・女子所属チームとの緻密な連携と情報共有が図れる協力体制を構築する。

### 4　国体チームの試合結果等の積極的な広報による関心度を高める取組の充実

・HP へのメンバー・試合結果掲載、日本代表選手の県選抜履歴等の掲載や選手インタビュー等の掲載を速やかに行い、国体チームのステイタスを向上させる。

## ６　女子サッカーの普及・強化

**＜目指す方向性＞**

**女子サッカーの普及を促進し、**

**各カテゴリーで日本を代表するチームや選手を育成する。**

**＜２３年度までの KGI＞**

① 女子選手登録者数を５，２００人、全選手登録者の１０％にする。

② 女子公認指導者数を７００人、全公認指導者の１０％にする。

③ 女子審判員数を２，６００人、全審判員の１０％にする。

### 1　女子サッカーの普及活動の推進

・技術部会での情報共有と男子指導者の支援体制を構築する。

・女性普及コーディネーターを新規に設置する。

・WE リーグ、なでしこリーグ、地域クラブとの連携となでしこひろばの積極的な開催。

## 2　女子サッカーの活動環境の改善

・トレセン活動等でのグラウンド調整や情報の共有を図る。

・小学校・中学校年代の活動の改善を図る。（例：中体連との連携、選抜活動大会の実施等）

## 3　女性の公認指導者の育成・拡充

・女性インストラクターを積極的に登用する。

・女子指導者対象の指導資格取得講習会（D・C 級）を開催する。

・女性 B 級ライセンスの取得を推進する。

## 4　女性の公認審判員の育成・拡充

・女子審判の育成と強化トレセンを実施する。

・女子対象の新規審判資格取得講習会を開催する。

・大学女子選手の３級取得講習会を実施するとともに、その後のフォローアップを計画的に行う。

## 5　トレセン活動の充実による選手育成

・カテゴリー代表選手や国体（県代表選手）がトレセン活動の目標となるよう、選手・指導者を動機付けする。

・U16 国体、トレセンリーグに向けてチーム組織（強化部・指導スタッフ・活動運営）の構築するとともに運営体制を整備する。

# 7　施設整備の推進

**＜目指す方向性＞**

**いつでもサッカーが楽しめる施設の拡充を推進する。**

**＜２３年度までの KGI＞**

**天然芝及び人工芝ピッチの整備・拡充を支援し、**

**天然芝又は人工芝ピッチの数を増やす。**

**【参考：2019 年度 90 ピッチ(全国 7 位）13.96 ㎡／人(全国 37 位）】**

## 1　JFA 施設整備助成金の活用による自治体と地域（市町村）協会と連携した施設整備の推進

・市町村協会・自治体と緻密に情報共有する。

## 2　かもめパークの施設設備の充実と活用推進

・2022 年度の芝張替・照明増設等改修に向けたワーキンググループによる検討を進める。また、SDG's の考え方を踏まえた芝の張替や照明器具の増設を考える。

・かもめパーク内の空き地の活用を推進する。

## 3　県立スポーツセンターの施設整備の支援と活用推進

・2023 年度以降の天然芝整備の推進を支援するとともに、利用促進を働きかける。

## 4　サッカーゴール寄贈事業を含め、地域（市町村）協会との連携・協力による施設設備の充実

・サッカーゴール寄贈事業の継続と事業拡大を図る。

# ８　社会貢献活動の推進と青少年の健全育成

**＜目指す方向性＞**

**社会貢献活動を推進し、国際感覚をもった青少年の健全育成を図る。**

**＜２３年度までの KGI＞**

**数値目標は、特になし**

## １　SDGs の考え方を踏まえながら、社会と地域への貢献活動を推進

**・かもめパークのごみ持帰り運動を推進する。**

**・ｉＰａｄ利用による会議資料のペーパーレス化を推進する。**

## ２　社会貢献活動への積極的な参加を啓発するなどして青少年の健全育成を推進

**・個人やチームで参加できる社会貢献プログラムを紹介するなどして、社会貢献活動への参加を促す。**

## ３　リスペクト、フェアプレーの定着に向けた啓発活動の充実

**・技術部との連携でサイレントゲーム等の導入を行う。**

**・各部会での啓発の講演等を行う。**

## ４　グラスルーツのスポーツの普及や障がい者のスポーツの活動環境づくりの支援

**・障がい者スポーツイベントを主催する。**

**・障がい者スポーツ活動への協力や後援を推進する。**

# ９　トップリーグとの連携・強化

**＜目指す方向性＞**

**地の利を生かして、トップリーグの発展と**

**神奈川サッカーの普及・強化の両立を目指す。**

**＜２３年度までの KGI＞**

**数値目標は、特になし**

## １　Ｊ・ＷＥ・なでしこ・Ｆリーグ等との連携・協力体制の強化

**・ＦＡコーチを介した技術分野での連携を強化する。**

**・大会運営を通した協力体制を強化する。**

## ２　Ｊリーグ等との定期的な情報交換の機会の創出

**・Ｊリーグ関係者の理事会へのオブザーバー参加。**

**・業務執行理事による訪問等の機会を設ける。**

## ３　Ｊリーグ等との協働事業の企画

**・各種事業への相互協力の機会を拡大する。**

## ４　Ｊリーグ等と連携した「こころのプロジェクト」の推進

**・Ｊリーグ等と連携したプロジェクトを企画し、実施する。**

## １０　サッカーを通じた国際交流の推進

＜目指す方向性＞

サッカーを通じた国際交流の推進により

国際感覚を身につけたサッカー選手や指導者等を育成する。

＜２３年度までの KGI＞

数値目標は、特になし

### １　東京オリ･パラ大会の円滑な運営とレガシーの構築

･次代を担う高校生や大学生による大会運営への参画を推進する。

### ２　国際大会、国内大会等のトップレベルの大会の招致活動の推進

･JFA や競技場との情報共有を図り、連携協力する体制を構築する。

### ３　海外キャンプの実施等によるチーム（選手･指導者等）の国際交流の推進

･県内でキャンプ等を実施するチームとの国際交流の機会を創出する。

### ４　県の特色を生かした国際交流大会等の開催を推進

･長期的視野に立って、国際交流を推進できる大会の開催や後援等の実現に向けて、具体的に検討する。

## １１　組織基盤の確立

＜目指す方向性＞

神奈川のサッカーの普及･充実をリードできる組織基盤を確立する。

＜２３年度までの KGI＞

協賛企業数：１０社、協賛金合計１，７００万円を維持する。

女性の役員等の割合を 20%に

## 1　事務局及びかもめパークの運営体制の充実による会員サービスの向上と収益の向上

・事務局及びかもめパークの業務の見直しを図り、職員の適正配置と連携した効率的、合理的な運営を推進する。

・会員並びに利用者ファーストに立ったサービスの充実により、収益の増大を目指す。

## 2　組織的なマーケティングによる協賛企業等の増大（財源の確保）

・マーケティング推進部を増員し、協賛企業等の増大に向けた取組を推進する。

・コロナ禍でも伸びている企業を洗い出し、協賛を得られるようアプローチを工夫する。

## 3　ガバナンス（意思決定・運営・会計原則・不祥事）、コンプライアンス（法令遵守）の一層の推進

・スポーツ団体ガバナンスコードに沿った評価改善により、適切な協会運営を推進する。

・ガバナンスやコンプライアンスに係る研修を企画し、適切な協会運営の在り方を追求する。

## 4　JFA 一括補助金の適切でより有効な活用の推進

・補助金の目的等を周知するとともに、各部会等との予算折衝や予算化手順等を明確化し、各部会等が目的に沿って適切で効果的な予算編成が行えるよう支援する。

## 5　役員等への女性登用による組織運営の充実

・役員改選期において、組織運営の充実に繋がる有能な女性役員等の登用を積極的に推進する。また、それに併せて、選定方法や定款の改訂等も行う。

＜参考資料＞

# 1　かながわサッカービジョン

## 理　念

**愛を何よりも大切にします。**

親や家庭を、郷土や母校、チームを、そして国を愛する心は、人の精神力・行動力の原点です。愛する心の強い人は、自分のことしか考えていない人より、はるかに強い力を発揮できます。

**プレーの精神（遊び心）を大切にします。I Play Soccer！**

サッカーを楽しみましょう！楽しんでこそサッカーが好きになり上手になります。

**フェアプレーの精神を大切にします。そしてみんなの夢を応援します。**

フェアプレーの精神こそ情操教育の原点です。人を思いやり、協力し合ってこそ、すばらしいチームワークが発揮されます。

以上の三つの精神を大切にして、サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、県民の健康増進を願い、地域に根付いた活動を通じて社会的発展に貢献します。

## 基本方針

神奈川の「歴史」と「地の利」を生かし、国際的視野に立ち、サッカーを通じて人々の成長に貢献します。また、サッカーを通じて県民の生涯スポーツの発展および健康増進に寄与します。

以上の活動を通じて県民に信頼されるサッカー協会を目指します。

## 使　命

**使命1　社会貢献活動の推進と青少年の健全な育成をめざします。**

（1）リスペクト、フェアプレーを徹底します。

サッカーによって育まれるリスペクト（大切に思うこと）、フェアプレー精神を少年の逞しい成長に役立てます。今日的な課題である暴力根絶やフェアプレーの推進については、あらゆる機会を通じて啓発活動に努めます。

（2）国際感覚をもったスケールの大きな青少年の育成をめざします。

ボランティア活動等を経験することにより、社会に積極的に貢献することのできる青少年を育成するとともに、国際交流を積極的に推進し国際感覚をもった青少年を育成します。

（3）生涯にわたってスポーツ（サッカー）を楽しむことのできる環境をつくります。

グラスルーツ（キッズからシニア、女子、障がい者等）のスポーツ（サッカー）の普及についても支援・協力を推進します。

**使命2　一般社団法人としての経営基盤を確立し、安定した事務局運営と財源の確保に努めます。**

（1）事務局の機能を充実させ、より組織的な運営をめざします。

役割分担を明確にし、人材の確保、育成を目指します。

（2）財源の確保と事業の拡大・充実を図ります。

企業や団体との連携を推進するとともに、事業の拡大・充実を図ります。また、県フットボールセンター（かもめパーク）の設立に伴い、県協会として各企業とのパートナーシップシップを結ぶなど、より安定した経営と組織的な運営を目指します。
さらに、国際大会、国内大会（天皇杯、皇后杯、その他）を積極的に招致します。

**使命3　神奈川県グリーンプロジェクトを推進するとともに、サッカー施設の拡大をめざします。**

（1）小学校をはじめ学校の校庭を芝生化するなど、神奈川県グリーンプロジェクを推進します。

（2）神奈川県フットボールセンター（かもめパーク）を活用し、選手の育成強化と指導者・審判の養成を図り、地域に愛される施設を目指します。

（3）サッカーのできる施設を確保・増設します。

自治体、民間、学校体育施設等のスポーツ施設の有効活用を推進するとともに、市・町・村の各施設にサッカーゴール（少年用、フットサル）を寄贈するなど、関係施設の充実を図ります。

**使命4　学校教育との連携を推進します。**

（1）学校（中学校・高校）の運動部活動を活性化する支援制度を充実します。

公認指導者の協力を仰ぎ、中学校や高等学校へ派遣し、運動部活動の活性化を図ります。

（2）地域社会との連携を推進し、スポーツ（サッカー）活動への理解を求め、青少年の健全育成を推進します。

（3）県及び市町村教育委員会との連携を深め、公的施設の活用を図り、指導者情報の共有化を推進します。

（4）「こころのプロジェクト」を推進し、子どもたちの夢を大きく育てるとともに、健全な青少年の育成に貢献します。

**使命5　県内の市町村協会やクラブチームの活性化に向けた連携・協力を推進します。**

（1）市町村協会との連携・協力を推進します。

市町村の指導者や選手との交流の活性化及びサッカーファミリーの拡大のための協力体制を推進します。また、市町村協会との交流を深め、キッズ、女子サッカーの普及・発展に積極的に取り組みます。

（2）クラブチームの活性化に向けた連携・協力を推進します。

総合型地域スポーツクラブの設立等、会場確保の協力などクラブチームへの支援活動を積極的に行います。

**使命6　Jリーグとの連携強化を図ります。**

（1）Jリーグとの連携事業の拡大を図ります。

Jリーグとの協力による各種事業の実施や国体、トレセン、指導者養成事業において、協力体制を構築します。
また、県サッカー協会と J リーグ代表者との情報交換を定期的に行い、Jリーグとの協働事業を推進します。

**使命7　指導者育成システムの充実と指導者の資質の向上を図ります。**

（1）神奈川県の指導者育成システムの充実を図ります。

フットボールカンファレンスやリフレッシュ研修会を実施するなど、指導者育成を充実するとともに、日本サッカー協会の育成・強化の考え方にベクトルを合わせた指導をします。

（2）公認指導者養成制度を拡充し、有資格の拡大をめざします。

公認指導者養成講習を充実させ、県サッカー協会の登録チームに有資格者指導者を配置し、指導者が選手のレベルに応じた指導ができることをめざします。
また、県協会として公認 B 級指導者講習会を開催するなど、県独自の取り組みを　活性化させます。

（3）神奈川の特色を生かした指導者研修会を実施します。

JFA のカリキュラムに神奈川の特色（方針・理念・使命）を加味して行います。

**使命8　審判員育成システムを充実し、審判員の資質向上をめざします。**

（1）審判員の育成システムを充実させ、技術との連携・協力を推進します。

審判員の資質向上と逞しい選手の育成に向けて、審判と技術の研修会を実施し、情報を共有するなかで、県サッカー全体のレベルアップを図っていきます。

（2）審判員の拡大を推進します。

県協会登録チームに複数の審判員を配置し、円滑な試合運営と的確なレフェリング　による試合を実現します。
また、女性審判員やユース審判員の育成に力を注ぎ、サッカーの活性化にも貢献します。

（3）神奈川の特色を生かした審判員研修会を実施します。

県の特色である審判員の育成システムを充実・発展させ、より独自性を発揮します。
また、講習会では、体力トレーニング等を行う際に救急救命士を帯同させるなど、人命を尊重した取り組みを行います。

（4）世界的な大会で活躍する審判員を育成します。

現在、県から国際主審や国際線審が生まれており、今後も国際審判員の育成を視野に入れて、将来性のある審判員を発掘・育成します。

**使命9　トレーニングセンターの活動を充実させ、地域、年齢別のカテゴリーを効果的に育成します。**

トレーニングセンターの活動では、指導者が世界基準を明確に示し、県の指導方針を踏まえた指導を実践します。

**使命10　サッカーを通じた国際交流を推進します。**

（1）海外キャンプ及び指導者の国際交流を推進します。

現在、U13 トレセンの海外キャンプを毎年実施していますが、今後も積極的にチーム、指導者等との海外交流を実施していきます。

（2）県の特色を生かした国際交流大会を実施します。

2002 年日韓ワールドカップ決勝開催の地として歴史を生かし、外国のチームを招待して県の特色を生かした国際的な大会を実施します。

**使命11「夢」を具現化します。**

サッカーを愛する仲間の「夢のある提言」に耳を傾け、その具現化に努力していきます。

2014年12月5日に神奈川県フットボールセンター（かもめパーク）がオープンしました。これは、我々の長年の夢が具現化されたものです。

今後も、県サッカーファミリーの繋がりを基盤にして、素晴らしい夢を実現していきます。

## 2　JFA 中期計画 2021/ 2024

# 中期計画2021-2024の全体像

JFA Mid-term Plan
JFA中期計画2021-2024

## フットボール

### 1 フットボールの進化【強化・育成】

「2050年までにワールドカップ優勝」に向けて

- 強化・育成のための中長期総合戦略の策定と実行
- 良質な指導とプレー環境の充実（技術担当専任化、競技カレンダー）
- JFA夢フィールド、JFAヨーロッパオフィス、JFAメディカルセンター等の連携
- パートナーシップによるテクニカル強化（インテリジェンス機能強化）
- アジア貢献、指導者の海外派遣
- 世界で活躍できる審判員の養成と国内リーグレフェリングの一層の向上

### 2 より多くの仲間とともに【普及】

「2050年までにサッカーファミリー1,000万人」に向けて

- 登録制度の改革
- メンバーシップ制度の導入
- パートナーシップによる踏み込んだ直接的な普及施策
- 健康領域への新たなチャレンジ
- 戦略的な施設整備の推進（子どもの遊び場、まちづくり連携）
- 多様性の推進（障がい者サッカー、ウォーキングサッカー、eスポーツ等）

**重点3領域**

**4種年代**
- 登録減少の歯止め（登録制度改革）
- 低学年を含めたプレー環境の改善
- 未就学児～低学年の施策強化
- 保護者の負担緩和／アプローチ

**女子**
- .WE LEAGUEの開幕
- なでしこジャパンの更なる強化
- 国体女子U-16、高校女子価値向上
- 普及施策の推進（特に3種年代）

**シニア**
- シニアの競技プレー環境の充実
- フェスティバル等各種イベントの企画
- 健康領域の施策との連携
- メンバーシップ連携施策の検討、実施

**デジタル推進**
- 強化・育成：テクニカル／フィジカル／メディカル
- 普及：登録制度改革とメンバーシップ

## 組織

### 3 強く、信頼される組織づくり

社会的な危機を乗り越える強く信頼される組織づくりへ

- あらゆる危機を想定した経営基盤強化と戦略的投資の実現
- 加盟団体も含めたサッカー界ガバナンス、コンプライアンスの強化
- 国際戦略の強化（存在感の発揮、国際機関での意思決定参画）
- SDGs、社会貢献の推進

## ビジネス

### 4 新たな収益循環モデルの構築

代表の更なる高付加価値化と新たな事業領域の開発へ

- メンバーシップを核としたパートナーシップ施策の強化
- デジタル＊パートナー連携による高付加価値化
- メンバーシップ連携によるファン拡大施策と新たな収益機会の創出
- より有効なパートナーシップの検討

12

# category：フットボール（1/3）

JFA Mid-term Plan
JFA中期計画2021-2024

「2050年までにワールドカップ優勝」に向けて

## 1 フットボールの進化【強化・育成】

### 強化・育成のための中長期総合戦略の策定と実行

我々の夢である"ワールドカップ優勝"に向け、強化・育成・指導者養成・普及といった「四位一体」の中長期ロードマップの検討を深める

### パートナーシップによるテクニカル強化（インテリジェンス機能強化）

パートナー企業と協業しながら、競技力向上に寄与する各種メソッドやデータ収集、分析体制を整備する

### 良質な指導とプレー環境の充実（技術担当専任化、競技カレンダー）

『中長期総合戦略』に基づき、サッカー界全体で整えるべき基盤（プレー環境）を、Jリーグを始めとする関連団体と連携して構築する

### アジア貢献、指導者の海外派遣

アジア各国協会と交流・連携強化を進めるとともに、日本人指導者派遣を通じてアジア全体の強化と底上げを図り、日本のチーム・指導者を育成する

### JFA夢フィールド、JFAヨーロッパオフィス、JFAメディカルセンター等の連携

JFA夢フィールドを"フットボールインテリジェンスの総本山"とし、JFAヨーロッパオフィスやJFAメディカルセンター、JFAアカデミー等とのデータ・ナレッジ連携モデルを開発する

### 世界で活躍できる審判員の養成と国内リーグレフェリングの一層の向上

日本人トップ審判員が常にワールドカップをはじめとする国際競技会に輩出されるよう、女子、フットサル、ビーチサッカーといった全カテゴリーを対象に養成強化を図る

13

## category : フットボール（2/3）

JFA Mid-term Plan
JFA中期計画2021-2024

**「2050年までにサッカーファミリー1,000万人」に向けて**

### 2 より多くの仲間とともに【普及】

**登録制度の改革**

既存登録制度の重要課題（チーム内未登録選手、個人とつながれない等）を抜本的に解決する新たな登録制度を管理システムとともに立ち上げる

**健康領域への新たなチャレンジ**

2021年のJFAメディカルセンターの再開に併せて、生涯現役、さらには、パートナーとの連携も視野にサッカーを通じた健康領域へのより踏み込んだ施策を検討・展開する

**メンバーシップ制度の導入**

上記登録制度の改革と連動して、JFAIDを軸としたよりライトな会員登録・管理サービスであるメンバーシップ制度を導入し、各種サービスを展開する

**戦略的な施設整備の推進**
（子どもの遊び場、まちづくり連携）

地域のまちづくりと連携しながら、単にサッカーができるだけの場所ではなく、フットボールセンターを軸にしたコミュニティー、商圏の形成へとつながる施設整備を行う

**パートナーシップによる**
**踏み込んだ直接的な普及施策**

サッカーを最初に始める4種年代へのきっかけ作りや、高校卒業時等の年代移行時でのリテンション施策など、新たなグラスルーツとの関わりを広げる

**多様性の推進**
（障がい者サッカー、ウォーキングサッカー、eスポーツ等）

従来通りの形式にとどまらず、多様なサッカーファミリー一人一人が、それぞれのスタイルでサッカーを楽しめるよう登録制度、競技会体制を整える

14

## category : フットボール（3/3）

JFA Mid-term Plan
JFA中期計画2021-2024

### フットボールカテゴリーの重点3領域

**4種年代**

日本サッカーのより一層の発展に向けて、その土台を形成する意味で重要な小学生年代のサッカー。将来的な日本サッカーの登録者の増加を志向する上で、4種年代、特に最初にスポーツを始めるキッズ年代への訴求は重要課題。

❑施策展開方針
- 登録減少の歯止め（登録制度改革）
- 低学年を含めたプレー環境の改善
- 未就学児～低学年の施策強化
- 保護者への負担緩和／アプローチ

**女子**

2011年のワールドカップで優勝したなでしこジャパン。2021年には、WE LEAGUEが開幕するが、なでしこvisionで定めた目標の達成に向けて、女子サッカーの強化・育成・普及により一層努める。

❑施策展開方針
- .WE LEAGUEの開幕
- なでしこジャパンの更なる強化
- 国体女子U-16、高校女子の価値向上
- 普及施策の推進（特に3種年代）

**シニア**

シニア領域は、特にサッカーファミリーの増加に向けた伸びしろの大きいカテゴリー。過去数年にわたって登録者数は増加傾向にあり、健康領域の施策展開と併せて、より踏み込んだアプローチを進めることで、更なる普及へとつなげる。

❑施策展開方針
- シニアの競技プレー環境の充実
- フェスティバル等各種イベントの企画
- 健康領域の施策との連携
- メンバーシップ連携施策の検討、実施

**デジタル推進**

フットボール領域におけるデジタル推進は重要課題。世界的にテクニカル、フィジカル、メディカルの観点でデジタルを駆使したデータ収集・分析事例が見られるが、日本での基盤整備、利活用は未だ発展途上の段階。同時に、普及領域におけるメンバーシップ制度の導入もデジタル推進と併せた展開が求められる。Jリーグをはじめ、パートナーとの連携も模索しながらデジタル推進を図る。

**①強化・育成領域のデジタル戦略（テクニカル／フィジカル／メディカル）　②普及領域のデジタル戦略（登録制度改革とメンバーシップ）**

15

# 登録制度改革/メンバーシップ導入について

JFA Mid-term Plan
JFA中期計画2021-2024

## 「JFA2005年宣言」の達成

サッカーファミリー1000万人に向けて。より多くの仲間とサッカーをする喜びを分かち合う。

**より多くの繋がり確保の施策**

**1．サッカーファミリー一人一人（個人）を主体とした永年登録制度への改革**

チーム経由でなく、選手・指導者・審判・ファンなど、サッカーファミリー一人一人（個人）と直接繋がる仕組みを構築

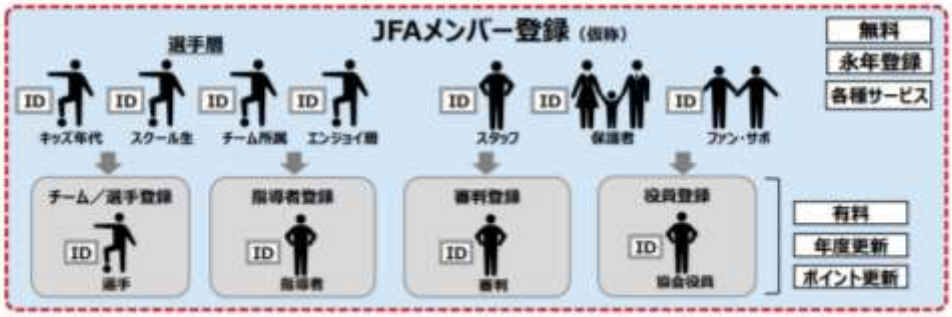
**より多くの人にサッカーを選んでもらう施策**

**2．登録者一人一人へのより効果的な普及施策の展開と4種年代改革**

一人一人とのつながりを最大限に活用し、より踏み込んだ「サッカーを選んでもらう」ための多面的な施策の展開

**一人一人のサッカーライフ充実に向けた各種サービスを提供**
**新たなパートナーシップを実現し、サッカー界への再投資を実現**

❑新しい登録制度（メンバーシップ導入）のイメージ図




16

# category：組織

JFA Mid-term Plan
JFA中期計画2021-2024

**社会的な危機を乗り越える強く信頼される組織づくりへ**

## 3 強く、信頼される組織づくり

### あらゆる危機を想定した経営基盤強化と戦略的投資の実現

新型コロナの影響が引き続き残存することが想定される向こう数年間は、組織の成長をもたらす戦略的投資に加え、加盟団体支援など有事も想定した対応の必要があり、弾力的な経営判断を実現するための財政基盤、管理体制が不可欠となる

### 国際戦略の強化（存在感の発揮、国際機関での意思決定参画）

組織の成長ひいては日本サッカーの発展を実現する上で、各国協会との交流やベンチマーキングは重要な意味を持つ。またそうした国際舞台の中で大きな存在感を発揮することで世界全体のサッカー界の動きに対しより機動的に対応することができる

### 加盟団体も含めたサッカー界のガバナンス強化、コンプライアンスの強化

これまでサッカー界としてメッセージを発信してきた暴力・暴言の根絶に加えて、統括団体であるJFAおよびその加盟団体においては、ガバナンス順守を前提とする高潔性の維持、強化が至上命題となっている

### SDGs、社会貢献の推進

組織運営にあたって、社会課題の解決やSDGsの達成に貢献することは重要な責務である。JFAが率先した取り組みや情報発信を行うことで、サッカー界全体の価値観、風土を醸成するだけでなく、ステークホルダーと連携した効果の最大化も狙う

17

category : 組織

JFA Mid-term Plan
JFA中期計画2021-2024

**社会的な危機を乗り越える強く信頼される組織づくりへ**

## 3 強く、信頼される組織づくり

### あらゆる危機を想定した 経営基盤強化と戦略的投資の実現

新型コロナの影響が引き続き残存することが想定される向こう数年間は、組織の成長をもたらす戦略的投資に加え、加盟団体支援など有事も想定した対応の必要があり、弾力的な経営判断を実現するための財政基盤、管理体制が不可欠となる

### 国際戦略の強化
（存在感の発揮、国際機関での意思決定参画）

組織の成長ひいては日本サッカーの発展を実現する上で、各国協会との交流やベンチマーキングは重要な意味を持つ。またそうした国際舞台の中で大きな存在感を発揮することで世界全体のサッカー界の動きに対しより機動的に対応することができる

### 加盟団体も含めた サッカー界のガバナンス強化、コンプライアンスの強化

これまでサッカー界としてメッセージを発信してきた暴力・暴言の根絶に加えて、統括団体であるJFAおよびその加盟団体においては、ガバナンス順守を前提とする高潔性の維持、強化が至上命題となっている

### SDGs、社会貢献の推進

組織運営にあたって、社会課題の解決やSDGsの達成に貢献することは重要な責務である。JFAが率先した取り組みや情報発信を行うことで、サッカー界全体の価値観、風土を醸成するだけでなく、ステークホルダーと連携した効果の最大化も狙う

17